

留学報告書 ～多くのものを得たアメリカでの4カ月～

ミドルテネシー州立大学
外国語学部生（中期）

私は2021年の8月から12月までアメリカのテネシー州にあるミドルテネシー州立大学へ中期留学をしました。コロナ渦という事もあり、不安を抱えながらの留学にはなっていましたが、それ以上に留学に対しての期待と楽しみを抱いていました。

私は幼い頃から海外に興味があり、外国語学部のある大学に通う事を目指していたころから「留学」が自分の中で大きな目標になっていました。大学に入学し、留学という夢を叶えるために、英語学習に今まで以上に力をいれてきました。しかし、一回目のTOEFL受験で、留学に行くのには程遠いレベルのスコアを出してしまい、本当に悔しい思いをしました。自分の勉強方法を見直すために、TOEFL講座を受講し、そこで自分に合った学習法を見つけることができ、また目標の為に学習することに楽しみを覚えていきました。そのおかげもあり、目標にしていたスコアに達することができ、無事留学内定をいただくことができました。コロナの影響もあり、一度は留学がキャンセルになり、留学が実現できないと思いましたが、それでも留学に行くことが可能になり、本当に嬉しく思います。

ミドルテネシー州立大学に行くのは、名古屋学院大学で私が唯一だったので、アメリカに着いてからとても心細くて、少し心が折れそうになってしまいました。私は大学生活が始まる前に1週間の隔離がありました。その際に留学生のアドバイザーの方が毎日ZOOMで話をしてくださり、隔離期間であっても英語に触れる機会がありました。

隔離生活が終わり、留学中に生活する寮に移動しました。その寮は現地の学生はもちろんの事ですが、多くの留学生が暮らすグローバルな寮であり、広大な大学内に位置していました。一階にキッチンを含めた共同のスペースがあり、二、三階は学生たちの部屋になっていました。知人が1人もいない状態でのスタートではありましたが、大学側が催してくれた、オリエンテーションやイベントのおかげで独りになることはなく、多くの学生と過ごすことができました。私は特に同じ寮に住んでいる学生と一緒に過ごす機会が多く、緊張感はすぐになくすることができました。また、私はシェアルームに住んでいたためルームメイトと毎日顔を合わせていました。そのおかげもあり、留学中の孤独感は一切感じることはありませんでした。そして、ルームメイトがいることで気軽に英語でコミュニケーションを取ることができ、英語を話すことが苦手な私にとって非常に良い環境でした。

大学の授業は、現地の学生と一緒に受ける形になっており、留学生の為の授業は一つもありませんでした。そのため、教授の英語を話すスピードは日本人の私にとってはとても速く、また授業の内容を理解するのに非常に時間がかかってしまいました。授業で遅れを取っていることに身をもって実感することとなり、精神的に辛かった時期もありました。はじめから全てが上手くいくとは思っていませんでしたが、自分の英語力の低さを目の当たりにしてとても悔しくなりました。しかし、それでも挫けずに英語力を高めたいと思わせてくれたのは周りの学生のおかげであると言えます。寮の仲間である現地のアメリカ人の助けや、他の留学生の頑張っている姿を見ることで、自分も頑張ろうという気持ちになり、精神的に辛くても、毎日英語の学習に取り組むことができました。

アメリカの大学での授業は、日本と比べてグループワークが多く、また生徒も積極的に発言することが多く、賑やかな授業をしていました。英語を話すことが得意ではないので、最初の方はグループでディスカッションをしていますが、私は間違いをすることに対する恐怖心があったので、自分から進んで話し出すことが出来ませんでした。毎日英語の学習をして、授業の内容が理解できるようになっていても、なかなかスピーキング能力が上達しませんでした。しかし、授業以外で友人と話す機会が増えてきたことで、間違いをしても問題ない、間違いをすることで成長するという事に気付くことができ、授業でも授業以外でも自

分から話しかけることができるようになっていました。

授業に慣れ始め、一番に実感したことはネイティブスピーカーの英語を楽に聞き取ることができるようになっていたことでした。スムーズに聞き取ることができるようになった後、英語でのコミュニケーションが更に楽しいと思えるようになりました。英語力を高めるために机に向かって勉強をすることも大事ですが、コミュニケーションを取ることが英語力を高める上で最も重要であると思いました。一番楽しい方法であり、一番実践的であると考えています。コミュニケーションを取る上で、相手が言っている言葉をインプットすることができ、更にそれをアウトプットすることで自然と英語を身につけることができます。寮に変えれば、いつも話している友人がいて、みんなで楽しく話しながら英語力を伸ばすことができるのは留学ならではの強さだと思います。

私はこの留學生活で、実際にアメリカの人々や文化に触れてきましたが、それは私にとってすごく大きな事でした。アメリカ人のフレンドリーな部分や、常に前向きな面を見ることで自分自身を成長させることができました。元々、ネガティブ思考で人の前に立つことが苦手だった私でしたが、アメリカ人と共に過ごすことで自然と彼らの良い部分を吸収することができ、周りの人にも言われるくらい性格が明るくなりました。そして、新しいことに挑戦したいという気持ちが強くなり、良い方向に自分を変えることができました。

留學に行く前から英語力を伸ばすことができると思っていたのですが、それ以上に人として成長したと強く思った留學生活で、コロナ渦で以前よりは自由が限られて、縛られる事も多かったですが、それでも心の底から行って良かったと思います。4カ月という非常に短い期間ではあったものの、私の人生の中で色々な面で一番充実していたと言える4か月間でした。特に私は周りの人々に非常に恵まれていたと感じており、留學生活で関わってきた人達に本当に感謝しています。留學生活を終えて、帰国してきても留學中に得た知識や経験を忘れずに、今後の自分が更に成長していくための糧にしていきたいと思っています。

